

令和元年 9 月 25 日  
September 25, 2019

大学院学生各位  
To All Graduate Students

2019 年度  
**基盤医学特論 開講通知**  
Information on Special Lecture Tokuron 2017.4-2018.3

題目：小型魚類イメージングで明らかになる未知の発生・老化機構

講師：石谷 太（大阪大学微生物病研究所・群馬大学生体調節研究所）

日時：2019 年 10 月 23 日(水) 18 時 00 分より (90 分)

場所：基礎研究棟、会議室 1（学務課前）

言語：日本語

ゼブラフィッシュやメダカなどの小型魚類は、飼育や遺伝子操作のし易さなどから、優れたモデル動物として発生生物学・遺伝学の研究者から注目され、動物発生の分子メカニズムの理解に大きく貢献してきました。私たちの研究室では、小型魚類の *in vivo* イメージングにおける優位性（分子・細胞・組織・個体の動態の挙把握が可能！）に注目し、小型魚類の胚を動物組織のモデルに見立て、発生・再生・恒常性維持を制御する未知の分子システムを探索・解析し、さらにそれらの破綻とヒト疾患の関連についても研究しております。

本セミナーの前半では、最近我々がゼブラフィッシュ *in vivo* イメージング解析により発見した「モルフォゲン勾配を介した初期胚細胞品質管理機構」（Akieda et al., *Nature Commun*, accepted）についてご紹介するとともに、その破綻とがんや脳疾患との関連について議論させていただきます。また、後半では、新たなモデル生物“超短命魚ターコイズキリフィッシュ”を使った個体老化・寿命制御機構の研究についてお話しします。ターコイズキリフィッシュは研究室で飼育可能な脊椎動物の中で最も短命であり、かつヒトと同様の老化の表現型を呈し、短期間で腫瘍や神経変性を自然発症することから新時代の老化モデルとして注目され始めています。本セミナーを通じて、小型魚類のヒト疾患・老化研究における新たな魅力をお伝えできればと考えております。また、皆様と活発な意見交換ができましたら幸いです。

※関係講座・部門等の連絡担当者：神経遺伝情報学 大河原 美静（内線 2447）

Contact: Ohkawara, Department of Neurogenetics (Ext. 2447)

事前の申込みは不要です。No Registration Required.